

# 令和2年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
人権教育の推進	<p>【学校目標】 生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、自他を大切にす態度の育成及びいじめなどの人権侵害を許さない人権感覚を育む。</p> <p>①生徒がお互いの人権や個性を認め合えるような環境を整え、いじめの早期発見・早期対応に努める。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>②生徒人権委員会活動や「中高生による人権交流事業」への参加を通して、人権意識の高い生徒の育成に務める。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>③学校と家庭が一体となった人権教育を推進する。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>④生徒が安心して学校生活が送れるように、校内の相談支援体制の充実を図る。 〔支援・研究課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①いじめ防止プログラムを実行する。教職員による「さん付け呼名」の共通理解といじめに関するアンケート調査、個別面談を実施する。(年間3回程度) また、全校集会を実施する。(年間3回程度)</p> <p>②南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」への参加人数(20人程度)</p> <p>③人権教育研修会と人権コンサートの実施(各1回以上)</p> <p>④生徒への有効な支援につなげるために、要望があれば心理検査等を実施したり、ケース会議を開催したりする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①教職員による「さん付け呼称」の共通理解を図った。個別面談は各ホームルーム担任より実施した。全校集会は新型コロナウイルス感染症予防のため実施していない。</p> <p>②南部ブロック生徒部会はリモートによる実施となった。</p> <p>③保護者教職員対象人権教育研修会及び人権コンサートは新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。</p> <p>④1年生26名についての心の理論課題の検査を実施し、担任に生徒の状況を報告して支援に活かすことができた。支援・研究課が主催しての校内ケース会議を11回行った。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>生徒がお互いの人権や個性を認め合えるよう、「さん付け呼称」を教職員共通理解下、継続実施した。また、機会を捉え生徒理解に努めた。</p> <p>また、人権意識を高めるための、「人権交流会」はリモートで行われた。参加した生徒は積極的に活動を行い、リーダーシップを発揮することができた。</p> <p>人権教育研修会は新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかったが、学校と家庭が協力して人権教育を推進することは変わらず、ニーズに応じ指導方針の検討や個別相談を実施できた。</p> <p>スクールカウンセラー事業の活用が大変効果的であり、生徒・保護者のニーズに寄り添う相談を定期的に行うことができた。</p>	<p>みなと高等学園の生徒は挨拶がとてもよくできる。来校したときにいつも積極的に挨拶してくれるのでとても気持ちが良い。これは他の学校より優れている点であり、卒業後の生活や職場で生かせると思うので、ぜひ続けてほしい。「さん付け呼称」や丁寧な言葉遣いも人権教育の基盤となるので継続してほしい。</p> <p>本所では発達障がい者支援の際に、これまでのいじめを受けてきた経験を相談されることが多い。いじめられた者が今度は他人をいじめるといいういじめの連鎖を断ち切るためにも、みなと高等学園の人権教育の推進に大いに期待している。</p>	<p>今年度はいじめに関する問題行動は見られなかったが、「いじめは絶対に許さない」という強い認識を学校全体で徹底し、組織的に取り組む必要がある。日頃の生徒の様子を丁寧に見守る体制を今後も継続していく。</p> <p>今年度はリモートでの実施であったが、人権交流集会南部ブロック生徒部会への参加は、他校生との交流やリーダーシップの醸成など生徒にとって有益であると考えてるので、積極的な参加を呼びかける。</p> <p>コロナ禍で保護者・教職員人権教育研修会を来年度こそは開きたい。保護者のニーズも考慮して講師の選定をし、保護者の参加を呼びかけた。</p> <p>相談体制における各校務分掌やスクールカウンセラー、外部機関との連携を強化しつつ、生徒のニーズに添った支援の充実に努めたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①教職員による「さん付け呼名」を研修や会議で共通理解を図り、周知徹底させる。いじめに関するアンケート調査と個別面談を実施し、いじめの早期発見と教職員への相談を促す。いじめの認知については、学校いじめ対策組織で組織的に判断する。</p> <p>②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」に参加し、他校生と交流を深める。</p> <p>③保護者・教職員を対象とした人権問題研修会や生徒・保護者・教職員を対象とした人権コンサートを実施する。</p> <p>④職員会議や学年会等で校内の相談支援体制について情報提供するとともに、校内支援コーディネーターの統括のもと、各学年の支援・研究課員が学年主任と連携して、学年会等での様々なニーズの把握に努める。スクールカウンセラー事業を活用する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教職員による「さん付け呼称」を研修や会議で周知徹底させて共通理解を図った。いじめに関するアンケート調査は特に実施せずホームルーム担任による個別面談等で、いじめの早期発見を図った。</p> <p>②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会等リモートで参加し、他校生と交流を深めることができた。</p> <p>③保護者を対象とした研修会は、新型コロナウイルス感染症予防のため実施しなかったが、文書による啓発等を中心に行った。</p> <p>④「みなと高等学園相談支援体制」を図式化し、職員会議で周知することができた。各学年会や支援課会で生徒の気になる状況について情報共有する機会を持つことができた。令和3年1月末までにスクールカウンセラー事業を年間10回活用し、生徒・保護者からのべ45件の相談を受けることができた。</p>			
キャリア教育の充実	<p>【学校目標】 生徒個々の資質や適性に応じ、職業能力や意欲等を高める指導を系統的・組織的に実施し、社会的・職業的自立に結びつける指導を推進する。</p> <p>①新型コロナウイルスの影響の中、適切な対策をとりながら、可能な限り生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施すると</p>	<p>評価指標</p> <p>①就業体験2回以上。進路説明会1回(各学年の保護者対象)。拡大進路相談(2年生の生徒と保護者対象)を個別に実施。進路便りを年間12回発行する。</p> <p>②令和元年度卒業生の進路先(県内)を全て訪問する。</p> <p>③保護者に後期就業体験時の生徒の様子についてアンケートを取る。内容は、PTA通信に掲載する。</p> <p>④とくしま特別支援学校技能検定において、</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①コロナ禍の影響もありタイトなスケジュールであったが、各学年校内実習を2回実施できた。現場実習については、例年通り1年生は1回、2年生は2回実施できた。</p> <p>3年生の就職活動としての現場実習については、生徒1名が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2回目の実習の途中で中止になり、それ以降の実習ができなかったが、無事一般就労に結びつくことができた。その他の生徒は3回以上の実習を実施でき、</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>各学年の指導担当者が中心となり、実態(生徒・保護者・担任のニーズ)に応じた就業体験・進路学習・進路相談・進路説明会の計画と実施ができた。また、新規の職場開拓を積極的に行うことにより、</p>	<p>卒業後のアフターケアは就労定着のためにも重要だと感じている。</p> <p>アフターケアを全員に対して行うことはかなり大変ではないかと推察する。就職してうまくいかなかったケースは学校がフォローして関係機関と連携して次の就職先に繋げてくれているということは大変ありがた</p>	<p>生徒の実態の多様化に伴い、卒業後すぐの就職だけでなく、就労継続支援等の福祉サービスを経て将来的に就職をめざすことも必要となってきた。関係機関との連携についても、卒業後の支援体制の構築に向けて、より早い段階から規模も拡大し、取り組んでいき</p>

	<p>ともに、生徒・保護者、関係機関等と共通理解を図り、最適な進路選択ができる。</p> <p>〔進路指導課〕</p> <p>②新型コロナウイルスの影響を見ながら、適宜卒業生へのアフターフォローを実施することにより、進路先での定着を図る。</p> <p>〔進路指導課〕</p> <p>③就業についての知識や理解を保護者も含め、新型コロナウイルスの対策をとりながら、保護者が子どもの就職について、話し合ったり相談する場を提供する。</p> <p>〔総務・環境課〕</p> <p>④各種検定において資格取得に向けた取組をとおして技能の習得を図るとともに、働く意欲や態度を育てる。</p> <p>〔支援・研究課〕</p> <p>⑤自分発見チェックリストを実施することで、生徒自身の自己理解を深め、社会的・職業的自立のための基礎をつくる。</p> <p>〔支援・研究課〕</p>	<p>4分野（ビルメン、接客、介護、ICT）に参加する。事後アンケートにおいて95%以上の生徒から「検定に参加してよかった」という回答が得られる。</p> <p>⑤チェックリストの結果について振り返る授業を1、2年のすべてのクラスにおいて年間1回以上行う。</p>	<p>一般・福祉就労に結びつくことができた。</p> <p>12月には学年ごとに日程を分け、全学年の保護者を対象に進路説明会を実施できた。</p> <p>1月から3月にかけて、2年生を対象に拡大進路相談を実施した。進路便りを年間12回発行した。</p> <p>②令和元年度卒業生全ての進路先を定期的、及び適宜必要に応じて訪問し、アフターフォローを行えた。</p> <p>③今年度は新型コロナウイルスの対策等があり、校内実習、現場実習ともに大きく計画が変更したので、生徒自身にアンケートを取り、生徒たちがどのように感じていたのかを保護者懇談などで伝え、進路について活かすことができた。</p> <p>④事後のアンケートの結果から94%の生徒から「検定に参加してよかった」という回答が得られた。評価指標95%をわずかに下回った。</p> <p>⑤1・2年生8クラス中5クラスで、チェックリストの結果を振り返る授業を行うことができた。残りのクラスでは、一斉授業ではなく個別指導をとおして、生徒の自己理解を支援することができた。</p>	<p>生徒の適性に応じた実習先・進路先を確保することができた。</p> <p>卒業生のアフターフォローについても、関係機関との連携により不具合に対して迅速に対応することができた。</p> <p>令和元年度卒業生においては、1名の離職があったが、関係機関と支援体制を作ることができた。</p>	<p>い。</p> <p>みなと高等学園は就労に向けてキャリア教育がしっかりしている。家庭でのお手伝いなどの積み重ねが必要であると感じる。</p> <p>一保護者の意見として、たとえば夏休みに奉仕作業をする日を設けることなどができれば、それは子どもたちにとって必ずプラスの経験になるのではないかと。</p>	<p>たい。</p> <p>各学年の進路担当者が中心となり、進路学習や就業体験を実施し、生徒の実態に応じた進路指導の取組を行う。また、進路便りを発行することで就労に対して情報提供を行うとともに、保護者の意識の向上に役立てたい。</p> <p>今後も卒業生のアフターケアを継続し、卒業生や保護者からの相談を受けたり、進路先や関係機関と連携したりしながら早期に対応することで、実態やニーズに応じた働き方を支援していく。</p> <p>技能検定の参加に向けての指導は、授業時間だけでは対応できず、早朝や放課後の練習時間の確保が必要である。</p> <p>自分発見チェックリストは、チェックリストを活用して自己理解に結びついた実践事例を蓄積して、効果的な活用方法を検証していきたい。</p>
<p>個別の指導計画の効果的な活用</p>	<p>【学校目標】</p> <p>生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作</p>	<p>評価指標</p> <p>①月1回程度の全体研修会またはグループ研修会を実施する。</p> <p>②行事の精選に努めることで、「個別の指</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①新型コロナウイルス感染症防止の観点から、研修形態や回数を見直して実施した。ZOOMを活用した分散型オンライン研修を</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) <b>B</b></p> <p>昨年度からの授業改善の取組をとおして、</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校の期間が長かったが、その期間もリモ</p>	<p>全体的な支援の充実は図れたが、それでもなお学びにくい生徒に対して個別の配慮や支援を検討</p>

	<p>成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を組織的に推進する。</p> <p>①生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、教員の授業力の向上を図る。 〔支援・研究課〕</p> <p>②生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、授業時間数を最大限確保する。 〔教務課〕</p> <p>③新学習指導要領に対応する教育課程についての検討会を実施する。 〔教務課〕</p>	<p>導計画」の『目標達成』が生徒全体の90%以上を目指す。 （『目標達成』以外の評価が9名以下で90%とする）</p> <p>③部会や学科会の中で検討できる時間を年間3回くらい確保する。</p>	<p>年間3回、資料を配付しての個別研修を年間1回実施した。</p> <p>②後期の評価はまだ提出されていないため前期の評価での割合となるが、90%以上の生徒が『目標達成』に値する評価には少し至らなかった。</p> <p>③学習指導要領が大きく変わる商業・情報部においては職員会議を含め年間5回実施し検討することができた。</p>	<p>教員が支援の3つの柱を常に意識できるようになり、授業力の向上を図ることができた。「個別の指導計画」において『目標達成』以外での評価がついているのは1年生が比較的多かった。新型コロナウイルス感染症による休校で目標設定時にまだ生徒の実態が十分把握できていなかった等の理由が考えられる。後期はそれらを踏まえての目標や手立てを考へられている。</p> <p>新教育課程の展開については、まだまだ指導要領を熟読して、実践できるように備える必要はあると感じられる。</p>	<p>トを利用して毎日定時に朝夕のSHRを行ってくれたり、家庭訪問をして子どもと定期的に連絡をとり、子どもの不安を和らげてくれてありがたかった。</p> <p>また、ホームページから動画で授業を受けることができたのも、子どもたちの学力保証という面からいい方法であると感じた。</p>	<p>し、授業実践の中で検証していくことが今後の課題である。</p> <p>生徒面談は生徒とじっくり向かい合う良い機会であると考えてるので、行事等の精選を検討して時間を確保していきたい。</p> <p>3つの柱に添って授業改善を図っても、なお学びにくい生徒に対する個別の配慮や支援はまだ十分でなく、今後の課題である。</p>
<p>センター的機能の充実</p>	<p>【学校目標】</p> <p>専門性の向上に努め、高等学校及び幼稚園、小・中学校に在籍する発達障がい児に対し積極的な助言及び支援を推進するとともに、保護者・地域・関係機関と密接に連携し信頼される学校づくりに努める。</p> <p>①県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育に関する相談支援や研修支援を行う。 〔支援・研究課〕</p> <p>②信頼される学校づくりのため、積極的な情報発信を推進する。 〔情報課〕</p> <p>③保護者との連携協力を推進する。 〔総務・環境課〕</p>	<p>①外部依頼の教育相談件数20件、研修会等への支援回数2件以上。発達障がい教育研究会（第1回）の参加数が50人。</p> <p>②行事等のホームページ更新数100回以上。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症予防の対策を考え、活動場所や内容を精選し、保護者と生徒と一緒に活動する会を実施する。</p>	<p>①外部向け相談件数は24件（令和3年3月見込み、通級におけるコンサルテーションを除く）であった。研修会への支援回数は1回（令和3年3月見込み）であった。継続支援を実施できた学校もあり、目標に沿った相談を実施することができた。発達障がい教育研修会は参加人数33名であった。</p> <p>②行事等のホームページ更新を100回以上行うことができた。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度は保護者と生徒と一緒に活動する会は実施できなかった。</p>	<p>総合評価 （評定） B</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の状況の中、教育相談件数は目標値を上回った。また、1つのケースに対して継続して支援することができたことは効果的であったといえる。</p> <p>発達障がい教育研究会の参加者については目標に達していないが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加対象を絞り、定員を少人数に設定したことも一因であると考えられる。</p> <p>ホームページ更新件数は100回以上に到達した。ホームページが新しいシステムに変わったので、昨年以上に研修の機会を増やしたり、更新しやすいICT環境作りを進めていきたい。</p>	<p>ホームページについては特に今年は200を超える更新数で、学校での様子がよく分かった。いろいろな団体や子どもたちとの交流の様子もアップされているので、乳幼児や利用者の様子もよく分かる。今後もみなと高等学園のことを広く啓発してほしい。</p>	<p>現状の相談体制に即して、目標値の見直しを図り、現状において無理なく活動していく必要がある。相談件数ではなく、依頼先のニーズに添えたかどうかということを重要視していきたい。</p> <p>保護者や地域への広報とともに、校内の教職員にもホームページの閲覧を勧め、他学科や他学年の取組や生徒の様子について情報共有を図る。</p> <p>教育研究所等の関係機関を通じて、教育相談のパンフレットの配布を依頼するなど、年度当初に広報活動を実施し、センター的機能の充実を図る。</p> <p>今年度、全体的な支援の充実は図れたが、それでもなお学びにくい生徒に対して個別の配慮や支援についての実践事例の収集・共有を図り、個別のニーズに応じた配慮や支援の充実をめざしたい。</p>
<p>特別活動の推進</p>	<p>【学校目標】</p> <p>学校行事・生徒会活動・部活動など望ましい集団活動を通して、心豊かな人間の育成を図るとも</p>	<p>①部活動参加率75%以上。</p> <p>②施設訪問・交流回数年間50回以上。</p> <p>③地震・津波、火災避難訓練回数年間6回以上。</p>	<p>①90%の生徒が部活動に登録して活動した。</p> <p>②年間58回（園芸で53回、ビルメンテナン스로2回、福祉サービスで2回、家庭</p>	<p>総合評価 （評定） A</p> <p>部活動参加率は昨年度より高く、目標を大幅に上回った。新型コロナ</p>	<p>今年度は特に地域との交流活動に力を入れていることがうかがわれた。いろいろな団体や子どもたちと植栽や収穫活動で交流の機会</p>	<p>部活動の実施日について、行事予定等で示すことで、他の計画を立てやすく、生徒の主体的な活動を引き出すことができ</p>

	<p>に、交流活動を推進し地域や人と人とのつながりを大切にする態度を養う。</p> <p>①部活動に参加することで、集団生活の決まりや礼儀を重んじ、仲間と協力する態度を養う。 〔特別活動・保健課〕</p> <p>②作業や交流活動を通して奉仕の精神を養う。 〔特別活動・保健課、教科担任〕</p> <p>③安全で安心できる学校づくりに努める。 〔特別活動・保健課〕</p> <p>④ハナミズキゾーン内の関係機関との連携を深め、情報を共有する。 〔管理職、特別活動・保健課〕</p>	<p>④ゾーン関連の行事（乳児院祭りや合同避難訓練・合同避難訓練反省会）への生徒・教職員の参加。</p>	<p>科で1回）実施した。</p> <p>③地震・津波想定避難訓練を4回、ゾーン合同火災避難訓練を2回、全国一斉緊急地震速報行動訓練を2回、計8回避難訓練を実施した。</p> <p>④ゾーン合同火災避難訓練（年2回）に全生徒及び教職員が参加した。近隣こども園との合同避難訓練を実施した。</p>	<p>コロナウイルス感染症への対策を取りながら、異年齢集団の活動や地域との交流活動をとおり、協調性や思いやり、社会貢献の精神を育むことができた。</p> <p>地域の方や近隣施設の方との交流により、円滑なコミュニケーションの方法について学ぶことができた。感染症対策として少人数グループで実施したため、回数が増えた授業もあった。</p> <p>異なる想定避難訓練を関係機関と連携しながら繰り返し実施することにより、避難行動について理解・把握でき、生徒・職員とも防災に関する意識や実践力を向上させることができた。</p> <p>ゾーン合同で避難訓練を行い、連帯感や達成感・奉仕の精神を育むことができた。</p>	<p>を多く持って下さり感謝している。入所者・利用者の中にはコミュニケーションをとることが難しい者もいるが、交流会ではコミュニケーションがとりやすかったという感想を持っていた。</p> <p>交流会については私たちも感謝しており、今後ともぜひ継続してほしいと考えている。</p> <p>地域施設との交流は生徒の協調性や思いやりの心を育むことに有効であると思うので継続してほしい。</p> <p>入所児の中には保護者と面会できない子どももいるので、生徒だけでなく乳幼児の情操教育にとっても良い影響がある。今後とも引き続きお願いしたい。</p>	<p>たが、職員会議や行事等により、計画通りに実施できなかったことが課題としてあげられる。実施日の確保について、早い段階から実施計画を提示したい。</p> <p>部活動やボランティア活動、交流活動を通して、様々な場面で多くの人と関わり生徒にとって有意義な経験ができた。活動によっては休日の活動もあり、生徒の負担や教職員の働き方に配慮し、参加の仕方や活動内容を検討しながら進めていきたい。</p> <p>発災の危険性が高まる中、授業時間以外の生徒の所在確認や安全管理をスムーズに行うための対策を講じていきたい。また、ゾーン合同で様々な状況を想定した訓練やゾーン内での備蓄品等の共通理解や連携方法を検討していく必要がある。</p>
<p>業務改善</p>	<p>【学校目標】</p> <p>業務改善やワークライフバランスの推進に努め、効率がよく働きやすい職場づくりを推進する。</p> <p>①教材のデータベース化を図り、活用を促進することで、教材研究の効率化を図る。 〔支援・研究課〕</p> <p>②会議の時間を確保し、意見を出しやすい環境を整えとともに、勤務時間内の終了を目指す。 〔管理職〕</p>	<p>①教材データの利用アンケートにおいて、「教材のデータベースは教材研究に役立っている」と回答する教員の割合が、全体の60%以上になる。</p> <p>②勤務時間内に職員会議等を終了する。（実施回数の80%）</p>	<p>①アンケートの回答者のうち、「教材のデータベースは教材研究に役立っている」と回答した教員の割合は84%であった。</p> <p>②学校運営戦略会議・職員会議ともすべて勤務時間内に終了することができた。</p>	<p>アンケートの結果より、昨年度より教材のデータベースを活用した教員の割合が増え、教材作成のために役立っていると思われる。</p> <p>職員会議を勤務時間内に終えることができた。教員から「時間を気にせず集中できた」「会議後に仕事をする時間ができた」との意見が寄せられた。</p> <p>復命書の簡略化は多くの教員から事務処理が軽減したとの評価を得ることができ、業務改善につながったといえる。</p>	<p>世の中全体が働き方改革に向かっており、教育界も例外ではない。</p> <p>一昨年度から会議の在り方や事務処理の方法について具体的に業務改善をし、効率も上がっているようである。</p> <p>今後もさらにあらゆる分野について職員全員で考え、工夫し、働き方改革をより一層進めていってほしい。</p>	<p>教材データベースを活用したことがない教員に知ってもらうため、周知方法の見直しを図る必要がある。</p> <p>職員会議の日や学校運営戦略会議の日の短縮授業が定着し、教員から好評を得ているが、さらに行事の精選やスリム化を各校務分掌や学年で案を出し合い、働き方改革を進めていきたい。</p>
	<p>活動計画</p>	<p>①学期ごとに教材の収集と活用を呼びかける。また、利用しやすいようにフォルダを整理する。</p> <p>②職員会議日に加え、学校運営戦略会議日も45分短縮授業とし、会議の時間を確保する。資料を電子化し、事前に提示することで時間短縮を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>評価指標の達成度</p>	<p>総合評価 (評定) B</p>	<p>評価指標</p>